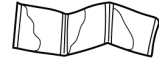




園児の服薬について



保育園に登園する子どもたちは、集団生活に支障がない健康状態にあり、通常は薬の取り扱いはいきません。しかし、医師の指示により保育時間内にどうしても必要な薬（持病の薬等）に限り保護者にかわり、看護師や保育士が投薬を行います。その場合は事前に担任にご相談ください。確認がない場合は、投薬ができなくなります。

食物アレルギーについて

食物アレルギーにおける食事制限は正しい内容の把握と、家庭との連携を密にしながら最善の方法を検討していきたいと考えています。下記注意事項をよくお読みください。

＜保育園としての対応＞

1. 食物アレルギーに対する食事制限は、医師の診断および指示に基づいて行います。必ず医師から園指定の「指示書」に記入してもらい保育園に提出してください。医師の指示のもとで経過観察をし、医師の定める期間ごとに指示書を更新してください。
2. 年度当初（進級時）または、指示に変更がある場合は再度提出してください。
3. 食物アレルギー児の食事は、代替もしくは除去を基本とし、集団給食において可能な範囲で取り組みます。※食事制限を家庭でやっていることが前提になります。
4. 家庭と園の取り組みの統一を図るため園児の健康状態・献立・調理方法等について必要に応じて保護者と話し合いを持ちます。
5. 集団保育の中では、万が一誤飲誤食の場合も考えられます。症状が出た場合の対処方法を必ずお知らせください。
6. 症状が軽減したら、医師の指示を受けながら、食事制限の解除を進めていきます。解除についてはまず家庭で行いその結果を確認した上で園でも実施します。
7. 家庭で変わった様子が見られた場合、その状況を園にお知らせください。
8. 必要がある場合には、保育園からも医師に対して問い合わせをすることがあります。
9. 未摂取の食品がある場合、初めて口にするアレルゲン（たんぱく質、果物等）となる食品は、家庭で始めることを原則とし、最低2度の経験をしてください。
10. 母乳のみで育児されている場合、ミルクによるアレルギー症状を起こすこともあるため、園で使用するミルクを数回飲み、嘔吐や下痢・湿疹などの症状がないか様子をみてください。
※0歳児さくらんぼ組は離乳食アンケートの記入にご協力ください。

<おねがい>

①子どもの健康を守るためにも、必要な予防接種は適切な時期に受けましょう。

* 予防接種後のお預かりはできません。副作用等の心配もありますので、ご家庭で様子を見られ、安静に過ごしてください。

②園で嘔吐した場合、感染予防のため、汚れた服等は洗わず、そのまま持ち帰ります。ご了承ください。

症状別 登園を控えるのが望ましい場合

発熱時

- * 発熱期間と同日の回復期間が必要
- ・ 朝から 37.5℃を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い
- ・ 食欲がなく朝食・水分がとれていない
- ・ 24 時間以内に解熱剤を使用している
- ・ 24 時間以内に 38℃以上の熱が出ていた
- * 1 歳以下の乳児の場合（上記にプラスして）
- ・ 平熱より 1℃以上高いとき
- ・ 38℃以上あるとき

咳の時

- * 前日に発熱がなくても
- ・ 夜間しばしば咳のために起きる
- ・ 喘鳴（ゼーゼー・ヒューヒュー）や呼吸困難がある
- ・ 呼吸が速い
- ・ 37.5℃以上の熱を伴っている
- ・ 元気がなく機嫌が悪い
- ・ 食欲がなく朝食・水分がとれない
- ・ 少し動いただけで咳がでる

下痢の時

- ・ 1 日 (24時間以内) に 2 回以上の下痢便がある
- ・ 下痢に伴い、体温がいつもより高めである
- ・ 朝、排尿がない

発しんの時

- ・ 発熱とともに発しんがある
- ・ 今までになかった発しんが出て、感染症が疑われ、医師より登園を控えるよう指示された
- ・ 口内炎のため食事や水分がとれない
- ・ とびひ、手足口病、顔等で患部を覆えない浸出液が多く、他児への感染の恐れがあり、かゆみが強く手で患部を掻いてしまう

嘔吐の時

- ・ 1 日 (24 時間以内) に 2 回以上の嘔吐がある
- ・ 食欲がなく、水分もほしがらない
- ・ 嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである
- ・ 顔色が悪く、ぐったりしている
- ・ 機嫌が悪く、元気がない

感染症について

出席停止が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症 1 日前から発しん出現の 4 日後まで	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ 新型コロナウイルス (COVID-19)	症状が有る期間（発症前24時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い）	症状（発熱）が出てから 5 日を経過し、かつ、解熱した後 3 日を経過するまで
風しん	発しん出現の前 7 日から後 7 日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現 1 ～ 2 日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺の腫脹が消失してから
結核		感染の恐れがなくなってから
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。7 日間服用後は医師の指示に従う）
腸管出血性大腸菌感染症 （O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続 2 回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの

＊ 感染症にかかっている方は、送迎ができません。

医師の診断を受け登園許可が必要な感染症

病 名	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	抗菌薬内服後 24 ～ 48 時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の影響がなく、普段の食事がとれること 体力が戻り、元気なこと 手足の湿疹が乾き、目立たなくなっていること
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の 1 週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 （ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後 1 週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（ <u>便の中に 1 か月程度ウイルスを排泄している</u> ので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
带状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと